

科目名	説話文学研究 I [院]					単位	2.0
担当教員	沼波 政保						
授業形態	講義	開講期間	前期	配当年次	1, 2	授業番号	3482

●授業のテーマ
説話文学研究

●到達目標

説話が成立する背景、また説話の主題の変遷を中心に攻究することを通して、説話文学を理解し、その研究方法を学ぶ。

●学習内容(授業概要)

説話は人々の間で語り継がれてきた話であるが、原初的形態は世俗説話であった。その世俗説話に仏教教理を結びつけることによって仏教説話は成立し、それは主に唱導の場で語られた。しかし、また、説話には貴族階級から社会の底辺に生きる民衆までの広範な人々の生き生きとした姿を見ることができる。よって、仏教説話集について攻究し、軍記物語など説話を多く摂取している他の作品も考察の対象にして、説話が貴族階級から底辺層までの人々の精神活動をいかに表現し、またいかなる影響を及ぼしたかについて研究する。

●学習内容(授業計画)

- 1 授業の進め方等についての説明
- 2 仏教説話の成立
- 3 平安期の仏教説話集①—『日本霊異記』
- 4 平安期の仏教説話集②—『法華験記』
- 5 平安期の仏教説話集③—往生伝類
- 6 平安期の仏教説話集④—『今昔物語集』
- 7 鎌倉期の仏教説話集①—『宝物集』
- 8 鎌倉期の仏教説話集②—『発心集』
- 9 鎌倉期の仏教説話集③—『閑居友』
- 10 鎌倉期の仏教説話集④—『撰集抄』
- 11 鎌倉期の仏教説話集⑤—『沙石集』
- 12 仏教説話集総論①—時代的変遷
- 13 仏教説話集総論②—時代的変遷の背景
- 14 仏教説話集総論③—法語文学への流れ
- 15 仏教説話集総論④—文学史的意義

●準備学習・事後学習の内容

毎回、自分の文献的調査及びそれに基づく研究結果を持って授業に臨み、授業後は、授業中に得た自分なりのテーマに基づいてさらに調査・研究を行って次回に臨むこと。

●成績評価方法・基準

平常の攻究への取り組み方（70%）を中心に、随時課すレポート（30%）を加味して評価する。

●テキスト（必携）
授業時に指示する。

●参考文献／その他
随時紹介するが、自分で探し出すことも、研究に必須のことである。

●履修上の注意
発表形式および討論形式で行う。